

助け合いを身近に

～アイマスク体験を通して～（4年生）

地域支援スタッフの方々をお招きして、アイマスク体験を行いました。子供たちはペアになり、アイマスクをする人とガイドをする人に分かれ、校内を歩きました。アイマスクをした人は足をゆっくり出し、床の感覚を確かめながら進み、ガイドをする人は細かく周囲の様子を伝えたり、手を引いて案内したりしました。誘導をする人は、指示をしてもペアが壁にぶつかりそうになるなど、上手く伝わらないもどかしさを感じていました。

この体験を通して、目が不自由な人の生活についての理解を深めました。些細な物でも障害物になることがあるため、これから町で視覚障害者と出会ったときに自分たちにできることは何かを考えました。「自転車の置き方に気を付ける。」「勇気を出して、声を掛けて助けたり安全に歩行できるように手伝ったりする。」と振り返り、学んだことを生かそうとする姿が見られました。「いつも歩いている道なのに感じ方が全然違った。」と、振り返る児童もいて、体験をしないと分からないことにも気付きました。

このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

